

西豪州概要

2020年1月

1 概況

(1) 地理的状況

西豪州は、豪州全土の約3分の1を占め、日本の約7倍の面積を有する広大な領域を占める(注1)。

西豪州の人口は約260万人(注2)で、そのうち約205万人(注3)がパース首都圏に集中している。残りの州民は、約3,000キロ以上にわたって延々と続く海岸線の各地に、あるいは、「アウトバック」と呼ばれる荒涼たる内陸部に点在して居住している。そのため、西豪州の人口分布は広範囲に拡がっている(注4)。

日本から西豪州への航空便は、2011年4月にカンタス航空が成田・パース間の直行便を停止して以来運航されていなかったが、2019年9月から全日空が成田・パース間に週7便(往復)運航している。パースは、飛行機でインドネシア(バリ島)へ約3時間半、シドニーへ約4時間半、ヨハネスブルグへ約12時間の飛行時間の距離にあるため、「世界で最も孤立した都市」と言われている。なお、2018年3月にはロンドンとの直行便就航が就航したが、飛行時間は約17時間。

日本との時差は年間を通じ、西豪州では-1時間(注5)。なお、豪州東部のキャンベラ、シドニー、メルボルン等の諸都市は夏時間を採用しており、西豪州との時差は冬時間で-2時間、夏時間で-3時間となる。

西豪州は、第一の貿易相手国である中国との関係が強まっているほか、インドや近隣のインドネシア、シンガポール、マレーシア等のアジア諸国との関係強化を進めており、また中東、アフリカ諸国との経済関係の強化にも踏み出している。「白豪主義」の時代と異なり、最近では東南アジア地域諸国からの移民や留学生等も多く、各コミュニティを維持しつつ、同時に地域社会に溶け込んでいる。そのため、多様なアジア系文化と従来の欧州系文化が混ざり合った「多文化主義」が根づいている。

(注1) 州面積 2,531,563.7 平方 km (豪州連邦統計局データ)

(注2) 正確には 2,606,338 人 (豪州連邦統計局、2018 年 12 月)。

(注3) 正確には 2,059,489 人 (豪州連邦統計局、2018 年 12 月)

(注4) 人口密度 1 平方キロ当たり約 1 人。パース大都市圏以外で人口が 3 万人を超えるのは、マンジュラ、ジェラルトン、アルバニー、バッセルトン、バンバリー、カルグーリ (いずれも 3~8 万人程度)。

(注5) 西豪州は、2006 年に試験的に夏時間を導入したが、2009 年の州民投票の結果、継続を希望しない者が過半数を占め、それ以降、夏時間を廃止した。

(2) 州都パースの気候風土

州都パースは豪州西海岸の南緯 31.59° 東経 115.51° に位置する。北半球に置き換えると、だいたい鹿児島市の位置となる(これを理由の一つとして、パース市と鹿児島市は姉妹都市関係を樹立)。気候は地中海性気候であり、日本のような明確な四季の変化はなく、大別すると雨期(冬)と乾期(夏)に分けられる。年間を通じて風が強く、冬(6月~8月)にはインド洋からの強い西風を伴った雨が降る日が多いが、一日中降り続くことはあまりない。一方、夏(12月~2月)にはほとんど雨は降らない。

サイクロンによる被害は州北部以外では殆どないが、干ばつや乾期の山火事は時折発生しており、雹(ひょう)により被害も稀にある。

(3) 日本との関係

西豪州と日本は、資源エネルギー分野を中心とした経済関係や文化交流、姉妹都市交流、要人往来を含めた様々なレベルでの人的な交流にも支えられ、全般的に極めて良好な関係を維持している。特に、鉄鉱石や天然ガス、工業製品や農産物等の貿易を通じて、互恵・補完関係にある重要なパートナーとなっている。また、日本語学習者や日本文化に関心が高い親日家が多く、最近ではスキー旅行などで日本を繰り返し訪れる西豪州民も多い。

(4) 日本との歴史的つながり

●ブルームへの日本人の渡来

西豪州と日本との関係は、ボタン加工用の真珠貝の貝殻や真珠そのものの採取のため、ブルーム（パース北西1600キロ）に日本人潜水夫が渡来した明治中期にまで遡る。ブルームの日本人はカソリック・シスター等と協力して、学校や病院を建て、地域社会に貢献した。このため日本政府は、1910年にブルーム在住のアーチャー・マイル氏を名誉領事に任命し、居留民の保護にあたった。その後1923年、兄の後継者として任命した弟のアーサー・マイル名誉領事は、太平洋戦争の勃発まで名誉領事を務めた。1958年に同氏の長男であるサム・マイルが名誉領事に任命され、1971年まで務めた。

●巡洋戦艦「伊吹」によるANZAC部隊の護衛

第一次世界大戦中の1914年11月、豪州・ニュージーランド連合軍（ANZAC）が西豪州アルバニーを出港してトルコに向かった際、日英同盟を背景に、巡洋戦艦「伊吹」が豪海軍艦艇とともに同部隊をエジプトまで護衛した。

2014年、豪連邦主催のアルバニーANZAC出港100周年記念式典が行われ、日本から中根一幸外務大臣政務官（当時）が出席し、護衛艦「きりさめ」も参加した。

●在パース総領事館の開館

太平洋戦争開戦の直前に、日豪両国は外交関係を樹立し、1941年（昭和16年）2月に、我が国はキャンベラに公使館を開設し、河相達夫公使が同年3月に着任した。同年7月、野党自由党カーティン党首（西豪州出身）の招待を受け、パースに来訪した河相公使は、西豪州産鉄鉱石の対日輸出につき協議した。なお、当時の日本は、前年の米国のくず鉄対日輸出禁止の経済制裁下にあった。

戦後の1960年（昭和35年）に西豪州産鉄鉱石の対日輸出が解禁された後、パースに駐在する日本企業駐在員の数は増加し、1967年（昭和42年）2月10日に在パース総領事館が開館した。

2 政治

(1) 政体

豪州は、西豪州を含む6州と2特別地域（首都特別地域、北部準州）からなる連邦国家。英連邦に属し、その政体はエリザベス二世英国女王を元首とする立憲君主制で、同女王によって任命された連邦総督及び州総督が王権を代行している。総督は憲法上広範かつ強力な権限を持つが、「君臨すれども統治せず」の英国式立憲主義の伝統に則って、実質的には議会制民主主義に基づく議院内閣制が採られている。

現在の西豪州総督は、キム・ビーズリー氏（The Honourable Kim Beazley AC）。ビーズリー総督は、連邦下院議員、連邦閣僚、連邦副首相、駐米大使を務めた後、20

18年5月、第33代総督に就任した。

(2) 州議会

西豪州議会は、上院 (Legislative Council) と下院 (Legislative Assembly) からなる二院制。

上院は6つの選挙区 (計36議席) から比例代表制によって選出され、議員の任期は4年。2017年選挙後の各党の議席数は、労働党14、自由党9、国民党4、グリーンズ4、ワンネーション党2、猟師・漁師・農民党1、自由民主党1、無所属1。上院議長は労働党のケート・ダウスト氏で、初の女性議長である。

下院は59の小選挙区から選出され、任期は4年。現在の議席数は、労働党40、自由党13、国民党6。下院議長は労働党のピーター・ワトソン氏である。

法案の成立には上下両院の承認が必要である。予算関連法案については、上院は否決権や修正要求権を有しているが、発議権や修正権はない。

(3) 州内政

労働党と自由党の二大政党が政権を担っているが、現在は2017年3月の州議会選挙で勝利したマーク・マッガーワン州首相 (Hon. Mark McGowan MLA, Premier) が率いる労働党が政権の座にある。

2008年9月から約8年半にわたり、バーネット州首相が率いる自由・国民党連立政権が政権を運営してきたが、資源ブームの終焉により経済・財政状況が悪化し、州財政は膨大な債務を抱え、失業率も増加した。2017年3月に行われた選挙では、西豪州の厳しい経済状況、バーネット政権に対する飽きから変化を求めた多くの有権者が労働党を支持し、労働党が地滑りの勝利を収め、マッガーワン新州首相が誕生した。マッガーワン政権は、州経済発展、財政再建と雇用創出など選挙公約の実現に取り組んでいる。

(4) 西豪州選出の連邦議員

連邦議会の上院 (Senate) は州単位の比例代表制を採っており、上院の任期は6年で、3年毎に半数が改選される。上院の定員76名中、西豪州の上院議員は、各比例区から計12名が選出される。現在の議席配分は、自由党5、労働党4、グリーンズ2、ワンネーション党1。

連邦議会の下院 (House of Representatives) は小選挙区制を採っており、合計150選挙区あり、このうち西豪州には16選挙区がある。下院議員の任期は3年で、現在の議席配分は自由党11、労働党5。

現在のモリソン連邦政権の閣僚のうち、西豪州選出議員は、マティアス・コーマン予算大臣 (上院)、クリスチャン・ポーター法務大臣、リンダ・レイノルズ防衛大臣 (上院)、ミカエリア・キャッシュ雇用・職能・零細家族企業大臣 (上院)、ワイヤット先住民担当大臣 (初の先住民の大臣)、メリッサ・プライス防衛産業大臣 (閣外大臣) が任命されている。

(5) 我が国との政治レベルでの交流

2006年4月、西豪州と関西との関係をより発展させるため、竹本直一衆議院議員を会長とする「西オーストラリア州・関西友好議員連盟」が設立された。

【参考】我が国要人の来訪 (1973年以降)

1973年5月	明仁皇太子同妃両殿下 (今上天皇皇后両陛下)
---------	------------------------

1974年11月	田中角栄内閣総理大臣
1980年10-11月	田中六助通商産業大臣
1982年10月	桂宮宜仁親王殿下
1985年6月	山下徳雄運輸大臣
10月	酒井時忠兵庫県知事
1987年10月	貝原俊民兵庫県知事
1991年10月	貝原俊民兵庫県知事
1995年5月	海部俊樹前首相（私的訪問）
8月	野呂田芳成農林水産大臣
1997年9月	経団連使節団
1998年1月	久間章生防衛庁長官
2000年8月	貝原俊民兵庫県知事
2001年10月	井戸敏三兵庫県知事
2006年2月	竹本直一財務副大臣
2006年11月	井戸敏三兵庫県知事
2009年5月	中曽根弘文外務大臣
2010年2月	岡田和也外務大臣
2010年12月	伴野豊外務副大臣
2011年7月	福田康夫元総理（ボアオ・フォーラム関連会合）
2014年4月	小野寺五典防衛大臣
2014年7月	安倍晋三総理大臣
2014年10月	中根一幸外務大臣政務官
2016年8月	竹本直一衆議院議員（関西・西豪州議連会長）
2017年4月	井戸敏三兵庫県知事
2017年9月	堀井巖外務大臣政務官
2019年9月	逢沢一郎衆議院議員他（日豪議連）
2019年11月	秋葉賢也総理大臣補佐官

西豪州政府要人の訪日（1991年以降）

1991年6-7月	カルメン・ローレンス首相
1993年3月	リチャード・コート首相
1993年9月	コリン・バーネット資源開発大臣
1995年3月	コリン・バーネット資源開発大臣
1996年7月	リチャード・コート首相
1998年4月	リチャード・コート首相
2001年9月	ジョン・サンダーソン総督
2001年10-11月	エリック・リパー副首相
2002年7月	ジェフリー・ギャロップ首相
2004年7月	ジョン・カウデル上院議長
2005年7月	ジェフリー・ギャロップ首相
2006年7月	アラン・カーペンター首相

2007年2月	ニック・グリフィス上院議長
2007年10月	エリック・リパー副首相
2008年5月	ローガン資源・エネルギー大臣
2008年6月	リーベリング下院議長
2009年2月	コリン・バーネット首相
2010年4月	ウッドアムス下院議長
2011年3月	コリン・バーネット首相
2011年9月	クリスチャン・ポーター財務・法務大臣
2011年9月	テリー・レッドマン農業大臣
2011年10月	ウッドアムス下院議長
2012年4月	キム・ヘイズ副首相兼観光大臣
2013年6月	コリン・バーネット首相
2013年7月	マーク・マッガーワン野党労働党党首
2015年3月	ケン・バストン州農業等担当大臣
2016年10月	バリー・ハウス上院議長
2017年4月	ベン・ワイヤット財務大臣
2017年10月	ポール・パパリア観光大臣
2017年11月	マーク・マッガーワン州首相 (ポール・パパリア観光大臣同行)
2019年1月	マーク・マッガーワン州首相

3 経済

(1) 西豪州経済の現状と最近の動向

西豪州の州内総生産（GSP）は2,559億ドル（2017/18年度）で豪州国内総生産（GDP）の14%。西豪州は2011年前後に資源ブームがピークを迎えて以降、資源価格の下落とブームの終焉を受けて州経済状況は悪化し、2016/17年度には成長率が1990年以降初のマイナス成長となったが、2017/18年の経済成長率は1.9%と再びプラスに転じ、州政府は18/19年度の成長率を2.0%と予測している。2019年5月の州失業率は6.3%と同時期の豪州全体の失業率5.2%を上回っている。

西豪州経済は、鉱業産品、農水産品等の天然資源の開発と輸出に支えられており、2017/18年度は、輸出がGSPの51%を占めている。2017年輸出産品の内訳は、輸出額ベースで鉄鉱石（50%）、LNG（21%）、金（9%）、アルミナ及びボーキサイト（6%）と資源が中心となっている。

西豪州からの輸出は、中国（全輸出の47%）、日本（16%）、韓国（6%）の順となっている。西豪州から輸出される鉄鉱石の81%、ニッケルの50%、石油（含むLNG等）の12%が中国へ輸出されている。また、石油（含むLNG等）の51%は日本へ輸出されている。

なお、2018年豪州全体の輸出額の42%は西豪州からの輸出によるものである。特に東アジア向け国別輸出額において、対中国（58%）、対シンガポール（63%）、対香港（68%）など、西豪州は豪の他州を圧倒している。

(2) 我が国との関係

戦後しばらく、豪州は対日鉄鉱石輸出を禁止していたが、故チャールズ・コート元西豪州首相（当時は産業・開発及び北西部担当大臣、リチャード・コート現駐日豪大使の父親）の積極的な働きかけもあり、1960年12月に鉄鉱石の輸出が解禁された。当時、高度成長の黎明期であり、急速に重化学工業化を促進していた我が国にとって、西豪州は鉄鉱石資源の一大供給源となった。その後、現在に至るまで、西豪州と我が国との間で資源取引が拡大し、資源と工業製品の貿易を通じて相互に補完的關係にある重要なパートナーとなっている。

我が国は、鉄鉱石の約6割、LNG、小麦の1割以上を西豪州から輸入しており、西豪州にとって日本は、輸出の16%（231億ドル）（2018年）を占める第2位の輸出先国となっている。一方、西豪州は日本から金や自動車等を輸入しており、輸入額においては、輸入総額の12%（39億ドル）（2018年）を占め第2位の輸入元国となっている。

西豪州に進出している日系企業は約100社。この中で、鉄鉱石やLNG等の資源ビジネスを扱う総合商社は、西豪州において生産・輸出される鉱産品の取扱業者としてだけでなく、資本参加により自らも権益を取得し商業活動や各種開発投資も積極的に行っている。日本の主なガス・電力会社も、LNG事業への資本参加及び長期売買契約の締結を行っている。

日本は、年間小麦需要の約9割（約500万トン）を世界中から輸入している。その中の豪州産輸入小麦約90万トンのうち、約70万トンは西豪州産である。日本が輸入する西豪州産小麦は、主にうどん用に使用されている。その他、西豪州産大麦は焼酎、ビール製造用に使用されている他、飼料用としても小麦・大麦が日本に輸出されている。

4 在留邦人

（1）在留邦人

当館に届出がなされている在留邦人数は、2018年10月現在で、7,268人であり、このうち、4,838人が永住者である。在留邦人の9割強がパース及びその近郊に在住している。長期滞在者の減少は、留学生・研究者・教師及びその他の在留確認が取れなかった人を減らしたことによるもので、民間企業駐在員等には大きな変動はない。

・民間企業関係者：	695人	
・報道関係者：	7人	
・自由業関係者：	106人	
・留学生・研究者・教師：	864人	
・政府関係機関職員：	29人	
・その他（WH等）：	729人	
・永住者：	4,838人	合計：7,268人

（参考）西豪州の在留邦人の推移（毎年10月1日現在）

1969年	198人	2010年	6,121人
1980年	365人	2011年	7,248人
1990年	1,033人	2012年	7,997人
2004年	3,825人	2013年	8,539人
2005年	4,293人	2014年	7,744人
2006年	4,845人	2015年	7,832人
2007年	5,277人	2016年	8,511人

2008年 5,965人 2017年 7,678人
2009年 6,619人 2018年 7,268人

(2) 当地の治安状況

西豪州内では治安状況に概ね安定しているが、西豪州警察の犯罪統計によれば、犯罪発生件数は多く、日本と比べて犯罪発生率が高い。近年犯罪発生件総数は減少しているものの、住居侵入や車両盗難の発生件数は依然として多く、薬物関連犯罪が増加傾向にある。

邦人が殺人事件等の凶悪犯罪に巻き込まれる事例はないが、パース市内のキングスパークで旅行者等が駐車していた車の中から置き引きに遭う事例やパース市近郊の住居への侵入窃盗も報告されている。

(3) 在留邦人組織（2019年8月現在）

●西豪州日本人会

（会長：師井雅之、三菱商事。個人会員40人、法人会員288人、会員企業53社）

「西豪州日本人会」、「パース日本商工会議所」及び「日本人学校運営理事会」の三組織が、組織の合理化、在留邦人社会の連携強化、当地での在留邦人団体組織の存在感向上を目的とし、2010年3月に「西豪州日本人会」として同一組織に統合された。現在、同会は、「個人部会」、「商工部会」及び「学校部会」の3部から構成される。

・個人部会（部会長：浅野克彦、三井物産）

主に日系企業駐在員及び永住者で構成され、日本人墓地の清掃、ボーリング大会、忘年会等の企画運営を行う。

・商工部会（部会長：師井日本人会会長が兼任）

西豪州に進出している日系企業の相互の親睦、共通の問題処理、日豪経済の発展と文化交流への寄与を目的とする。セミナー等の企画・実施を行う。

・学校部会（部会長：海老坂信朗、関西電力）

パース日本人学校及びパース補習授業校の運営を行う。

・日本人学校（全日制）（吉崎潔校長。生徒数33人）

・補習校（毎土曜日）（福本智晴校長。生徒数408人）

●西豪州日本クラブ（会長：オルコット美砂子、会員数：57人）

永住者を中心とした親睦クラブ。毎月1回のコアラ会（食事会）とクリスマス会やバザー等を実施。

●サポートネット虹の会（会長：大槻慎一、会員135名）

1999年、大槻会長含む当地邦人永住者が中心となり、パース居住の在留邦人に対する福祉活動を目的に設立（2000年に社会福祉法人化）。

主な活動内容は、①邦人独居老人の介護援助、②邦人配偶者に対する家庭内暴力等の相談受付、警察やセーフティハウス等への通報・保護要請等、③4歳以下の児童を持つ邦人母親の子育て支援、生活情報の交換の場である約30のプレイグループへの支援。

同会は、上記功績が認められ、2018年外務大臣表彰を受賞した。

5 広報・文化活動

(1) 概況

西豪州は、地理的特性からアジア諸国との繋がりが強く、日本との密接な経済関係を背景に日本に対する関心は高い。当館は、良好な日豪関係の維持強化のため、日本映画祭、日本伝統文化事業、国際交流基金事業等、様々な日本文化紹介事業を実施し、対日理解の促進に努めているほか、日本語教師との連携等による教育広報を通じ、日本に関

する情報を発信し、バランスのとれた対日観の醸成に努めている。また、日本語弁論大会の支援、日本語能力試験の広報等を通じた日本語教育支援、JETプログラムや国費留学生等の人物交流支援、日本への観光客誘致や日本酒紹介事業を実施している。広大な西豪州の人口のほとんどはパース首都圏に集中し、遠隔地在住者への情報量は極めて限られることから、館員の出張やホームページやSNS（ツイッター及びフェイスブック）を通じた積極的な情報発信を行っている。

当地での最大の日本文化紹介イベントである「パース日本祭り」は、パース日本祭り実行委員会が準備・実施しており、同委員会は日本人会、日本クラブ、虹の会、西豪州豪日協会、JETAA、兵庫文化交流センターなどの当地日系団体関係者で結成されている。（2019年は3月に実施。参加者は推定約2万人）。

（2）姉妹都市交流

西豪州では、西豪州と兵庫県の姉妹交流をはじめ、以下の姉妹都市関係がある。当館は、同交流事業を様々な形で支援している。特に、西豪州と姉妹都市提携を結ぶ兵庫県が1992年に当地に設置した兵庫文化交流センターとは密接な協力・連携を図っており、2006年の西豪州・兵庫姉妹提携25周年時、同センター設立15周年を記念して、その活動に対して外務大臣表彰を行った。2017年には、それぞれの周年行事のため杉戸町長（1月）、兵庫県知事（4月）、世田谷区長（10月）、赤穂市長（11月）が姉妹都市交流相手の自治体を訪問した。2018年には、足立区、世田谷区、太地町から中高生らが来訪し、交流を深めた。

2019年は鹿児島市・パース市が姉妹都市提携45周年、足立区・ベルモント市が同35周年をそれぞれ迎える。

●姉妹都市提携（11件）（2019年8月現在）

提携年	都市名	主な交流内容
74年4月	パース市・鹿児島市	高校生交流事業、市民交流団の相互派遣
79年4月	フリーマントル市・横須賀市	高校生交流事業
81年5月	ブルーム・和歌山県太地町	市・町幹部による相互訪問、小学生交流
81年6月	西豪州・兵庫県	兵庫文化交流センターの運営、教員交流
84年10月	ベルモント市・東京都足立区	中学生の相互訪問交流、市民交流団の相互派遣、姉妹都市専門員受入
92年11月	バンバリー市・東京都世田谷区	小学生の相互訪問交流
96年11月	バッセルトン・埼玉県杉戸町	中学生相互交流、職員派遣
97年4月	ロッキンハム市・兵庫県赤穂市	小中高生の派遣・受入、市民交流
98年9月	ジェラルトン市・静岡県湖西市	中学生の派遣・受入
01年2月	アルバニー市・群馬県富岡市	中高生・教職員交流
10年11月	アルバニー市・宮崎県日南市	中高生相互交流

※ 姉妹港（2件）：フリーマントル港／名古屋港、
アルバニー港／油津港（宮崎県日南市）

(3) 日本語教育状況

西豪州日本語学習者数：36,726人（2018年国際交流基金調べ）

西豪州の公立学校では日本語が最も学習者が多い外国語となっており、日本語学習熱は高い。当地には日本語教師を会員とする西豪州日本語教師協会があり、日本語教授法等のセミナーや日本語弁論大会の開催等を行っている。会員数は約120名。同協会はこれまでの功績が認められ、2018年外務大臣表彰を受賞した。

(4) JETプログラム

JETプログラム（Japan Exchange and Teaching Programme：「語学指導等を行う外国青年招致事業」）は、地方公共団体が、総務省、外務省、文部科学省及び財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の協力の下に実施している（昭和62年度にスタート）。

2018年度は、西豪州から、18名が新たに本プログラムに参加した。職種は、中学校・高等学校等で語学指導に従事する語学指導助手（ALT：Assistant Language Teacher）が16名、国内地方公共団体に国際交流活動に従事する国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）が2名。原則として任期1年の予定で全国各地の配属先で英語の指導等に当たっている。同制度発足以来2018年度までに西豪州から合計487名が参加している。

（参考）過去7年間の派遣人数の推移

年度	CIR	ALT	計
2012	0	6	6
2013	1	19	20
2014	1	9	10
2015	0	17	17
2016	1	13	14
2017	2	19	21
2018	2	16	18

西豪州JET同窓会（JETAAWA、会長：ウィリアム・ペレラ氏）

1998年に発足し、会員総数は、現在約530名である。当館と緊密に連絡をとりながら、JETプログラムの広報活動のほか、各種交流文化イベントを積極的に実施している。同団体はその活動功績が認められ、2016年外務大臣表彰を受賞した。なお、2000年11月に第1回JETAA国際総会（東京）の執行委員選挙において、当地代表ミーガン・カイノ氏が副会長に選出されたことがある。また2018年10月には、当地においてJETAAオセアニア地域総会が開催された。

(5) 西豪州豪日協会

（会長：ルース・ボイラン。団体会員数17、個人会員約100名）

1974年、ゴードン・フリース元駐日大使の呼掛けで発足した文化交流団体。Christmas in July、パース日本祭り、パース子供祭り等、当地ならではの各種イベントの開催、日本語学習者への奨学金プログラムの実施、ニュースレターの発行等を通じ、日・西豪州の友好親善の増進のために活動している。

平成元年春にレスリー・ウィリアム・スレード元会長が勲四等旭日章を、平成27年春にパトリック・D・ホワイト元会長が旭日小綬章を叙勲された。平成16年に同協会、平成29年にジェラルド・ボイラン前西豪州豪日協会会長及びテリー・オトゥール前ジェラルトン・グリナーフ豪日協会会長が外務大臣表彰を受賞した。

（了）